

		和歌山県農林水産部水産局水産振興課					
目的		当地域での主要水産物であるイセエビの漁獲量を増加させ、漁業所得の向上を図るため、つきいそ（投石）による漁場の造成を行う。					
目標		イセエビ漁獲量増加		整理番号：3			
事業実施者		那智勝浦町					
実施地区		那智勝浦町勝浦・宇久井地区					
実施期間及び目標年度		実施期間		目標年度			
		令和2年度		令和6年度			
助成金額		9,685,500 円					
事業計画の内容		つきいそ（投石）による漁場の造成（2,900m ³ ）					
評価	取組の目標（KPI）		漁業所得				
			基準年		（平成30年度時点）782百万円		
			現状値		（令和6年度末時点）581百万円	増加率	-26%
			目標値		（令和7年度末）860百万円	増加率	10%
	成果目標		イセエビ漁獲量の増加				
			現状値		（令和6年度末）0 kg		
			目標値		（令和6年度末）313 kg		
	（1）現状値の説明		整備から禁漁期間を終え、漁場としての活用を令和6年度から開始したが、黒潮大蛇行に伴う海況変化によりイセエビの漁獲量が大幅に減少した。これにより漁場が令和5年度より拡大したにも関わらず、前年度より1.8 tの漁獲量減少となった。				
	（2）地域への経済効果		当地方のイセエビ漁業は、安定して収入の得られる数少ない生業の一つである。また、イセエビ漁業には高齢の漁業者も従事しており、近場での操業機会の増加は、経費削減の他、操業の安全性向上にも寄与している。黒潮大蛇行の終息した暁には、イセエビ資源の増加が期待されている。				
	（3）所見		イセエビは、親エビの卵から孵化した後、黒潮流域内にて浮遊幼生期を過ごし、その後、沿岸域へ加入し、稚エビへと成長する。一方、黒潮は2017（平成29）年夏季に始まった大蛇行により、紀伊半島から離岸基調で経過してきた。この黒潮の離岸により、イセエビ幼生が加入しにくくなり、イセエビ資源量の減少をもたらした可能性が考えられる。イセエビ資源の減少は当該地域だけではなく、熊野灘海域全体に及んでおり、事業計画当時では予見できなかった大幅な漁獲量の減少であるため、海況変化が望まれる。				
	（4）評価機関への意見等		—				
	今後の改善方向等に関する分析		黒潮大蛇行終息の兆しも最近見られることから、引き続きイセエビ資源の減少を防ぐための適切な資源管理を実施するとともに、漁場を適切に管理することが重要である。				